

No. 1384

首都の守り力強く

— 警視庁新庁舎落成 —

皇居前の桜田門に完成した警視庁新庁舎。この新庁舎の落成式が8月4日行われ、今泉正隆警視總監をはじめ石破国家公安委員長、鈴木東京都知事など約360名が出席した。式典ではかねてから庁内で募集していた警視庁行進曲も披露された。警視庁は明治7年鍛冶橋に津山藩邸を庁舎にして発足その後日比谷に移り昭和6年桜田門の赤レンガの庁舎となった。新庁舎の指令本部。コンピューターの導入によって110番の受理、指令が迅速、適確に行われるようになった。このほか、大規模災害に対応できる総合指揮所、水の再利用設備などが整えられており首都の治安を守るのにふさわしいものとなっている。また訪れる都民に少しでも警視庁を理解してもらおうとその歴史と活動の状況が一目でわかる資料室も開設された。これまでの暗いイメージを一新して近代的な明るい雰囲気となった警視庁。これからの活躍が期待される。

ポーランド秘蔵浮世絵展

愛知県・岡崎市にある岡崎市美術館では、今ポーランド秘蔵浮世絵名作展が開かれています。この浮世絵は、ポーランドの著名な美術収集家ヤシンスキーの手で世界各国から集められ、ポーランドの古都クラコフの国立美術館に秘蔵されていたものです。今回はその中から160点が選ばれ日本で初めて公開されることになりました。東州斎写楽や歌川広重、喜多川歌麿らの秀作は浮世絵の鑑賞研究にまたとない機会と期待されています。

ガンバる老兵

— 国鉄鶴見線 —

総延長9.7キロ、国鉄鶴見駅を起点に支線がふたつ終着駅が3つ、3両編成の電車がガダゴト走る大都会のローカル線、国鉄鶴見線。全部で13ある駅のうち鶴見駅を除いてすべて無人駅。したがって使用ずみのキップはそなえ置き箱のなかへ。販売はもちろん自動販売機。めずらしいのは昭和駅。駅前の商店でもキップを売っている。首都圏ではここだけのこと。おもしろいのは駅名。安善、浅野、武蔵白石などは埋立て事業により工場地帯の基礎を築いた功労者の名を取ったもの、大正15年から京浜工業地帯の歴史とともに走り続けてきた電車がある。支線のひとつ大川線を走るクモハ12型電車だ。この型の電車は大正15年から製作された国鉄初の半鋼鉄製電車。車体の鉄板はビュウで止められ、前とうしろに運転席がある。また急カーブでも走れるように長さが17メートルと普通より3メートル短い。武蔵白石駅と終点の大川駅のふたつしかない大川線をたった一両でけなげに走るミニ電車。この型の電車は今ではここしか走っていない。ふたつの駅の間約1キロを2分半で行ったりきたり。それでも1日60往復もある。朝のラッシュ時は3分間隔で運転。小さな電車は沿線の各工場に通う労働者で満員。時間によっては都内の国電並みの混雑になることもある。日中は打って変ってのんびりムード。車内はガラガラ、乗客ひとりに乗務員2人の時もある。おかげでこの線もご多分にもれず赤字線である。SLの消えたいま全国の鉄道ファンの熱いまなざしを一身に集め、今日も頑張る老兵クモハ型電車である。